

歴史を旅する信州上田

旅のチカラ研究所

2016年 11月

旅のチカラ研究所 植木圭二

11月の信州上田は紅葉真っ盛り。2016年NHK大河ドラマ「真田丸」の人気も手伝って大変な賑わいだ。とはいえ都会とは違う素朴な信州では、ゆっくりと時間が流れている感じで歴史と紅葉を満喫できる。城や温泉、真田氏ゆかりの地へ歴史を訪ねる旅を昔の会社の元同僚のおじさん4人で行ってきた。

■上田城跡公園ケヤキ並木



上田城は真田昌幸が作った出城の一つ。城を囲むケヤキ並木はかつて上田城の堀だったところで、現在は埋め立てられて散歩道になっている。そして今は、ケヤキが紅葉のトンネルを見事に作っている。

この散歩道は昭和47年まで鉄道が走っていたとのことで、よく見るとそのプラットホーム跡も見られる。堀から鉄道そして散歩道と、時代に応じて姿を変えていく様は何故か興味をそそる。



ここ信州上田は、真田ファンのみならず都会を離れて歴史散策をしたい人にはお勧めのスポットばかり。上田城跡の中心部分も鮮やかな赤と黄の紅葉で観光客は夢中で写真を撮っている。恐らくこんな見事な紅葉は二度と見るできないという気持ちかもしれない。



上田城跡公園は上田駅から徒歩 12 分、市役所のすぐ近くという立地。入場は無料。

■真田氏本城跡

上田駅から北東方向に 10km 程のところ、真田氏本城跡がある。ここは山城で、いかにも戦上手の真田らしい立地環境だ。真田親子がこの山城であれこれと戦術を練ったことを想像すると何か楽しくなってくる。昔の城や遺跡は当時の様子を想像することが楽しむコツと聞いたことがある。

山城なので当然見晴らしは最高。敵を眼下に見下ろせるロケーションだ。



面白いものを見つけました。ご存知のように真田家の家紋は六文銭で、穴が開いた銭を 6 つ並べたものだが、ここでは一円玉が 6 個並んでいる。

昔は三途の川の渡し賃が六文だったという言い伝えから、死んでも困らないように兵士が六文銭を縫い付けていたということからだという。今の貨幣価値からすれば 500 円玉を 6 つくらい必要かもしれない。



■真田氏歴史館

真田氏本城跡の近くにある真田氏歴史館にも立ち寄った。武具甲冑や真田一族に関する資料を展示していて、一時間もあれば見ることができる。その一時間によって真田ツウになった気分させてくれる。入館料は一般 250 円、高校生・大学生 160 円、小中学生 100 円。

隣接する真田庵ではクルミ味とゴマ味のおはぎ、すいとんなどの郷土料理を味わうことができる。このすいとんは、信州味噌仕立てでとても旨い。



■別所温泉

上田駅から上田電鉄別所線で約 30 分、終点が別所温泉だ。温泉街や寺社仏閣は駅から歩いて回れる範囲にある。

別所温泉は真田太平記にしばしば登場する真田氏ゆかりの温泉で、入湯料 150 円の共同浴場が 3 カ所あり、気軽に日帰り入浴もできる。旅館も 20 軒ほどあり、どこもしっとり落ち着いた宿ばかりだ。歴史情緒も満点、大き過ぎず小さ過ぎずのちょうど良い私好みの規模の温泉街になっている。

街のほぼ中央にある北向観音（きたむき かのん）は 825 年開創されたということで、とても風情がある。その名前のように本堂が北向きの寺というのは日本ではほとんど例がないという。

北に位置する長野の善光寺が南を向いているので、善光寺と対峙させたという説もある。確かに上田市や別所温泉のほぼ北方向に長野市が位置している。



街の北西にある安楽寺は日本で最も古い臨済禅宗寺院の一つで、禅寺なので座禅体験も毎朝できるといふ。(500 円要予約) ここには国宝の八角三重塔があり、木造の八角塔としては全国で一つしかないという貴重なものだ。

建立は 1290 年代ということで、これは材木の伐採年代から解明したもので別の意味の歴史ロマンを感じる。拝観料は大人 300 円、小人 100 円。



■信州上田は待っている

紅葉に燃える信州上田、ちょっとニッチな真田氏を中心とした一泊2日の歴史散策の旅はお勧めだ。

新幹線を使えば日帰りも可能だが、別所温泉に泊まって翌日は善光寺参りをした。

ベストシーズンは紅葉の季節はもちろんだが、信州の雄大な山々と澄んだ空気によって春夏秋冬それぞれ楽しめること間違いない。

2016年11月13日～14日訪問